

2018年9月30日

## 沖縄県知事選挙結果について

立憲民主党幹事長 福山哲郎

本日、沖縄県知事選挙の投開票が行われ、立憲民主党及び「オール沖縄」が推薦した、玉城デニー候補が当選を果たした。玉城デニー候補に対して、県内各地で県民の皆さんから力強い応援の声を寄せていただいた。また、設立して間もない立憲民主党沖縄県連合にも多くの激励をいただいた。沖縄県民の皆様のご支援に心から感謝を申し上げます。

玉城デニー候補の当選の意義は、極めて重要である。それは、第一に、翁長前知事の遺志を継承する県政を沖縄県民が選択し、平和の島・沖縄を希求し、過重な基地負担に反対し、辺野古新基地建設撤回を支持する県民の意志が改めて明確となったことである。第二は、「基地か経済振興」かの選択を強いる政府への追従ではなく、「誇りある豊かな沖縄」をめざし、沖縄県民自身の自己決定にもとづいて県政を進めていくことを選択したことである。

政府与党は、この知事選挙における沖縄県民の選択に真摯に向き合い、自らの沖縄への対応を猛省すべきである。県民の意志に反する安全保障政策に有効性はないこと、政府与党の都合を沖縄に押しつける手法は、もはや通用しないことをしっかりと肝に銘ずるべきである。まして、この選挙結果を受けても、なお辺野古新基地建設の埋立て工事を再開するなどということは、到底あってはならない。

玉城新知事の行く手には、まだまだ多くの難関が待ち構えているかもしれない。しかし、「ウチナーンチュの心がひとつ」になれば、新時代沖縄は確実に未来を切り拓いていける。何よりも沖縄のアイデンティティを信じ、平和と豊かさを同時に追求していこうとする、「沖縄民主主義」は、必ずその原動力となる。

立憲民主党は、結党1周年を経て、「まっとうな政治」の実現をめざす、新たなステージに向かおうとしている。設立した立憲民主党沖縄県連合を軸に、新時代沖縄をつくる玉城県政と連携して、草の根から、ボトムアップの政治の実現をめざして、さらに取り組みを強化していく決意である。

以上